

施工パッケージ型積算方式について

平成29年5月

国土交通省

国土技術政策総合研究所



◆ 内容構成(要点) ◆

1. 施工パッケージ型積算方式の概要

- ☑適用時期と範囲、導入経緯
- ☑施工パッケージ型積算方式の特徴
- ☑標準単価から積算単価への補正方法

2. 土木工事標準積算基準書について

- ☑施工パッケージの表記

3. 入札・契約図書類における留意事項

- ☑数量算出要領(修正方針と事例)

4. 設計変更について

- ☑施工パッケージ型積算方式の変更対応方法

5. その他

- ☑国総研HPに公表中の施工パッケージ関連資料

1. 施工パッケージ型積算方式の概要

(1) 積算方式のこれまでの取り組み

- ✓積算の効率化を目的として、平成5年から「市場単価」、平成16年から「ユニットプライス型積算」を導入
- ✓変更協議の円滑化を目的として、平成22年から「総価契約単価合意方式」を全ての工事に導入
- ✓より積算を効率化するため、平成24年から、「ユニットプライス型積算」を廃止し「施工パッケージ型積算」を導入

改訂年月		H5年3月まで	H5年4月から	H16年12月から	H22年4月から	H24年10月から
改訂事項		積上型積算を継続	市場単価方式の導入	ユニットプライス型積算方式の試行	総価契約単価合意方式の導入	施工パッケージ型積算方式の試行
積上型積算方式	契約方式	総価契約	総価契約	→	総価契約単価合意	→
	積算方法	・歩掛	・歩掛 ・市場単価 (H20まで工種拡大)	→	→	・歩掛 ・市場単価 ・施工パッケージ
ユニットプライス型積算方式	契約方式			総価契約単価合意	→	H24年4月から廃止
	積算方法			・ユニットプライス (H22まで工種拡大)	→	

1. 施工パッケージ型積算方式の概要

(2) 適用時期と範囲

【適用開始】

◆平成24年10月1日以降に入札を行う工事より試行を開始。

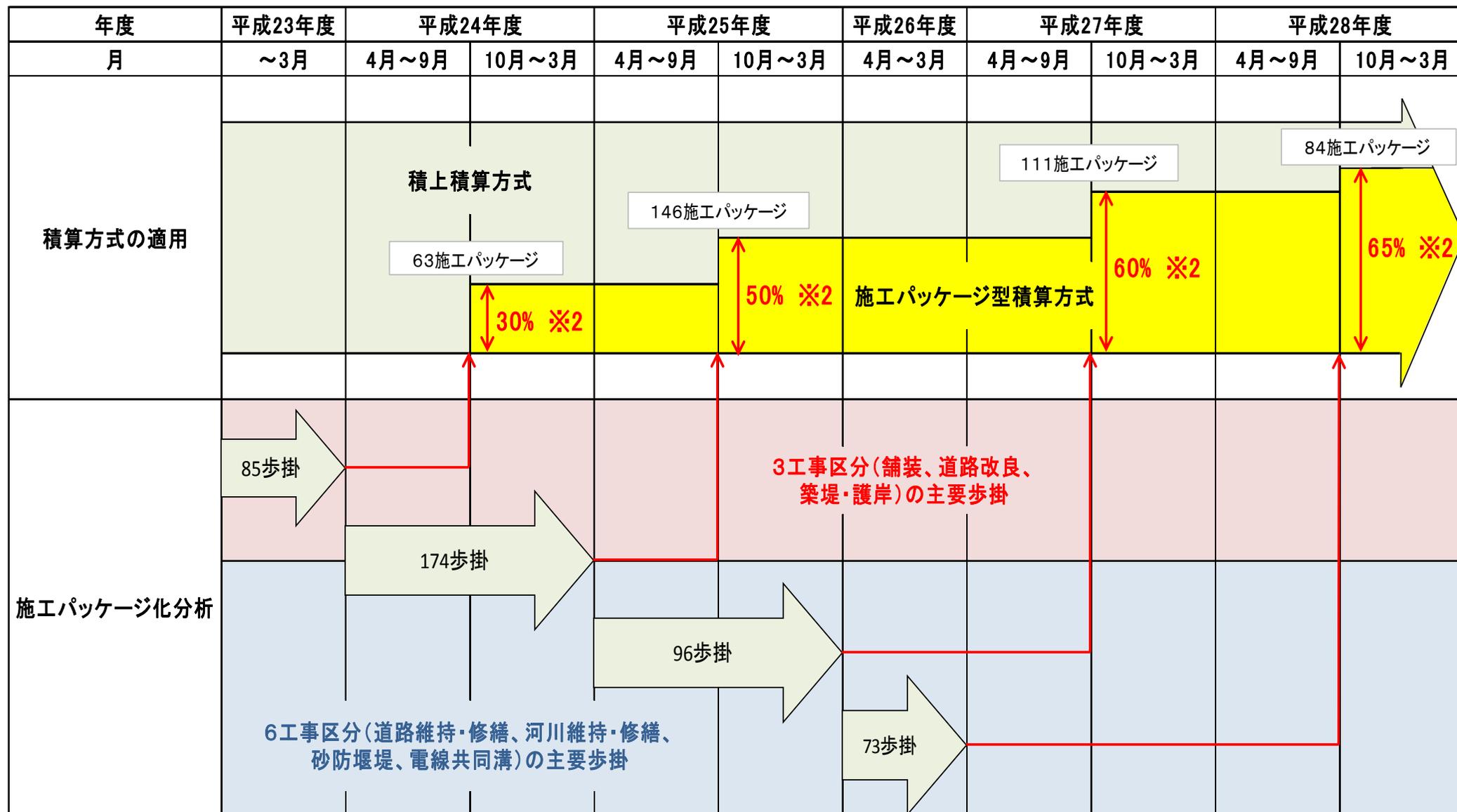
【適用範囲】

- ◆平成24年10月1日から、3工事区分(舗装、道路改良、築堤・護岸)の主要工種に、**63施工パッケージ**を適用。
 - ◆平成25年10月1日から、6工事区分(道路維持、道路修繕、河川維持、河川修繕、砂防堰堤、電線共同溝)の主要工種にも範囲を拡充し、総数209施工パッケージを適用(改定等により、平成27年4月1日時点で、総数**208施工パッケージ**を適用)。
 - ◆平成27年10月1日から、新たに111施工パッケージを追加し、総数**319施工パッケージ**を適用。
 - ◆平成28年10月1日から、新たに84施工パッケージを追加し、総数**403施工パッケージ**を適用。
 - ◆平成29年4月1日から、新たに14施工パッケージを追加し、総数**416施工パッケージ**を適用(施工パッケージ区分の見直しにより1施工パッケージを削除)。
- ⇒「施工パッケージ」を導入した工種は、積算基準書から歩掛が削除され、工事区分にかかわらず**全ての土木工事において「施工パッケージ」**による積算を行う。

1. 施工パッケージ型積算方式の概要

(3) これまでの導入経緯(※1)

※1: 平成29年4月以降は、適用済み施工パッケージの改定を中心に実施



※2: 施工パッケージ型積算方式の割合は、積算での使用頻度

1. 施工パッケージ型積算方式の概要

(4) 追加する施工パッケージ (H29年4月1日追加適用分)

分類	工種名	No.	施工パッケージ名
土工	土工(ICT)	1	掘削(ICT)
		2	路体(築堤)盛土(ICT)
		3	路床盛土(ICT)
共通工	法面整形工(ICT)	4	法面整形(ICT)
	コンクリートブロック積(張)工	5	大型ブロック積
		6	プレキャスト基礎ブロック
		7	プレキャスト基礎ブロック(材料費)
ジオテキスタイル工	8	まき出し・敷均し, 締固め	
河川海岸	消波根固めブロック工	9	消波根固めブロック横取り
		10	消波根固めブロック積込
		11	消波根固めブロック荷卸
舗装工	路盤工(ICT)	12	不陸整正(ICT)
		13	下層路盤(車道・路肩部)(ICT)
		14	上層路盤(車道・路肩部)(ICT)

1. 施工パッケージ型積算方式の概要

(5) 用語の定義・解説

名称	定義・解説
標準単価 ※	<ul style="list-style-type: none">・東京17区における基準年月の標準的な単価・平成29年度の基準年月は平成28年4月
積算単価	<ul style="list-style-type: none">・工事地区、発注時期に応じて標準単価を補正して算出する単価・補正により算出可能であるため非公表
補正式 ※	<ul style="list-style-type: none">・積算単価算出の際に使用する補正式 (標準単価、機労材構成比、機労材単価を用いて算出)
代表機労材規格 ※	<ul style="list-style-type: none">・標準単価を設定した際に想定した代表的な機械・労務・材料規格・機械3機種、労務4職種、材料4規格、市場単価1規格
機労材構成比 ※	<ul style="list-style-type: none">・標準単価毎に設定された代表機労材規格毎の金額構成比率
工事費内訳書	<ul style="list-style-type: none">・第1回入札に際し、第1回入札書に記載される入札金額に対応した工事費の内訳書であり、入札参加者から提出される
応札者単価	<ul style="list-style-type: none">・工事費内訳書に記載された単価
請負代金内訳書	<ul style="list-style-type: none">・数量総括表に掲げる工種、種別及び細別に対応する金額を表示したもので、契約締結後14日以内に受注者から提出される

※ 国総研HPにて公表

1. 施工パッケージ型積算方式の概要

(6) 積算体系の相違

『施工パッケージ型積算方式』とは、**直接工事費**について、施工単位ごとに機械経費、労務費、材料費を含んだ標準単価を設定し、積算する方式。(H24.10～適用開始)

積上型積算

		工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	単価
	下層路盤	舗装			
	モータグ	舗装工			
	普通作業	アスファルト舗装			
	路盤材	下層路盤	RC-40 t=300	m ²	1,026
	モータグ	上層路盤	RM-40 t=200	m ²	785
	ロードロー	基層	粗粒度AS 再生t=100	m ²	1,765
	タイヤロー	表層	密粒度AS 再生t=50	m ²	971
運転手	燃料費	諸雑費			
燃料費	機械損	諸雑費			
燃料費	機械損	諸雑費			
燃料費	機械損	諸雑費			
燃料費	機械損	諸雑費			
燃料費	機械損	諸雑費			

共通仮設費 (率分)

〔例：準備費 (準備・測量等)
技術管理費 (品質管理費等)〕

共通仮設費 (積上げ分)

〔例：運搬費 (20t以上の重機等)
技術管理費 (特別な品質管理)〕

現場管理費

一般管理費等

工種毎に機労材単価を積み上げる。さらに各工種の必要量を計上する。

施工パッケージ型積算方式

「標準単価」
(下層路盤)

直接工事費
(機械経費+労務費+材料費)

共通仮設費 (率分)

〔例：準備費 (準備・測量等)
技術管理費 (品質管理費等)〕

共通仮設費 (積上げ分)

〔例：運搬費 (20t以上の重機等)
技術管理費 (特別な品質管理)〕

現場管理費

一般管理費等

目的物について、積算条件毎に設定された「標準単価」を選ぶだけ。

間接費の積算は積上積算と共通

1. 施工パッケージ型積算方式の概要

(7) 透明性の確保(標準単価と補正式の公表)

標準単価、補正式等をホームページで公表。
これらを用い、各地区・時期の積算単価を算出することが可能。



《補正式(イメージ)》

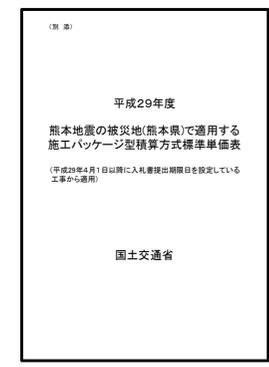
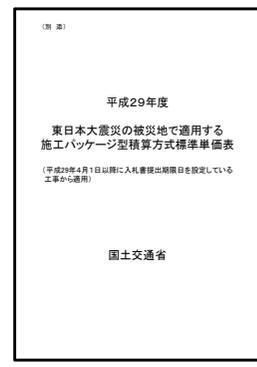
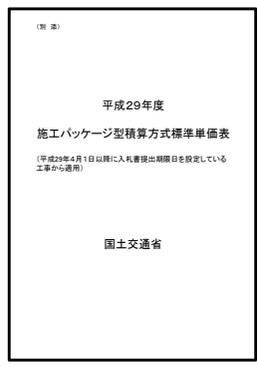
H29.4 大阪 積算単価

$$= \text{H28.4東京標準単価} \times \left[K \times \frac{\text{H29.4大阪機械単価}}{\text{H28.4東京機械単価}} + R \times \frac{\text{H29.4大阪労務単価}}{\text{H28.4東京労務単価}} + Z \times \frac{\text{H29.4大阪材料単価}}{\text{H28.4東京材料単価}} \right]$$

K: 標準単価に占める機械費の構成割合
R: 標準単価に占める労務費の構成割合
Z: 標準単価に占める材料費の構成割合

国総研HPで公表

- 施工パッケージ型積算方式標準単価表
- 東日本大震災の被災地で適用する施工パッケージ型積算方式標準単価表
- 熊本地震の被災地(熊本県)で適用する施工パッケージ型積算方式標準単価表



1. 施工パッケージ型積算方式の概要

(7) 透明性の確保(標準単価表の内容)

施工パッケージごとに、標準単価、機労材構成比、代表機労材規格を公表。

【下層路盤(車道・路肩部)の一例】

条件区分		標準単価	機労材構成比														
平均厚さ	材料		K	K1	K2	K3	R	R1	R2	R3	R4	Z	Z1	Z2	Z3	Z4	S
75mm以上125mm以下	クラッシュラン C-40	714.76	8.01	2.93	2.29	2.13	16.41	8.42	6.64	-	-	75.58	74.15	1.32	-	-	市場単価構成比率
125mmを超え175mm以下	クラッシュラン C-40	979.56	5.85	2.14	1.67	1.56	11.97	6.14	4.85	-	-	82.18	81.14	0.96	-	-	-

標準単価

機械構成比率

労務構成比率

材料構成比率

市場単価構成比率

代表機労材規格											
K (*印: 賃料)			R				Z				S
K1	K2	K3	R1	R2	R3	R4	Z1	Z2	Z3	Z4	S
モータグレッダ [土工用・排出ガス対策型 (第1次基準値)] ブレード幅3.1m	ロードローラ [マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 運転質量10~12t 締固め幅2.1m	タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 運転質量8~20t	運転手 (特殊)	普通作			クラッシュラン C-40	軽油 1.2号 パトロール給油	-	-	-
モータグレッダ [土工用・排出ガス対策型 (第1次基準値)] ブレード幅3.1m	ロードローラ [マカダム・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 運転質量10~12t 締固め幅2.1m	タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 運転質量8~20t	運転手 (特殊)	普通作業員							

代表機労材規格

機労材構成比K1~K3、R1~R4、Z1~Z4の合計が、K、R、Zと一致しない場合もあるが、標準単価には代表材料規格に示していない費用も含んでいる。

1. 施工パッケージ型積算方式の概要

(8) 標準単価から積算単価への補正式

施工パッケージ型積算方式で用いる、標準単価(P)から積算単価(P')への補正式は以下の通り。

$$\begin{aligned} \ll \text{補正式} \gg \quad P' = P \times & \left\{ \left(\frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} + \dots + \frac{K3r}{100} \times \frac{K3t'}{K3t} \right) \times \frac{K_r}{K1r + \dots + K3r} \right. \\ & + \left(\frac{R1r}{100} \times \frac{R1t'}{R1t} + \dots + \frac{R4r}{100} \times \frac{R4t'}{R4t} \right) \times \frac{R_r}{R1r + \dots + R4r} \\ & + \left(\frac{Z1r}{100} \times \frac{Z1t'}{Z1t} + \dots + \frac{Z4r}{100} \times \frac{Z4t'}{Z4t} \right) \times \frac{Z_r}{Z1r + \dots + Z4r} + \frac{S_r}{100} \times \frac{S_t'}{S_t} \\ & \left. + \frac{100 - K_r - R_r - Z_r - S_r}{100} \right\} \end{aligned}$$

機械: 3機種
労務: 4職種
材料: 4規格
市場単価: 1規格

P': 積算単価(積算地区、積算年月)

P: 標準単価(東京17区、基準年月)

K_r: 標準単価における全機械(K1~K3,他)の構成比合計

K_{1r}~K_{3r}: 標準単価における代表機械規格K1~3の構成比

K_{1t}~K_{3t}: 代表機械規格K1~3の単価(東京17区、基準年月)

K_{1t'}~K_{3t'}: 代表機械規格K1~3の単価(積算地区、積算年月)

R_r: 標準単価における全労務(R1~R4,他)の構成比合計

R_{1r}~R_{4r}: 標準単価における代表労務規格R1~4の構成比

R_{1t}~R_{4t}: 代表労務規格R1~4の単価(東京17区、基準年月)

R_{1t'}~R_{4t'}: 代表労務規格R1~4の単価(積算地区、積算年月)

Z_r: 標準単価における全材料(Z1~Z4,他)の構成比合計

Z_{1r}~Z_{4r}: 標準単価における代表材料規格Z1~4の構成比

Z_{1t}~Z_{4t}: 代表材料規格Z1~4の単価(東京17区、基準年月)

Z_{1t'}~Z_{4t'}: 代表材料規格Z1~4の単価(積算地区、積算年月)

S_r: 標準単価における市場単価Sの構成比

S_t: 市場単価Sの所与条件における単価(東京17区、基準年月)

S_{t'}: 市場単価Sの所与条件における単価(積算地区、積算年月)

1. 施工パッケージ型積算方式の概要

(9) 標準単価から積算単価への算出方法(計算例)

L型擁壁 24-8-25(20)、鉄筋量0.08t/m³以上0.10t/m³未満、基礎碎石有り、均しコンクリート有り、仮囲いジェットヒータ養生、圧送管延長無し、標準単価45,617円)の積算単価(名古屋、H29.4)を算出する。

L型擁壁の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(H28.4)(円)	名古屋(H29.4)(円)
K		2.49	—	—
K1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90~110m ³ /h	1.38	51,800	51,800
K2	ジェットヒータ 126MJ/h (30,100kcal/h) (* 賃料)	0.30	747	861
K3	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA	0.24	416	416
R		43.03	—	—
R1	普通作業員	15.26	19,800	18,900
R2	型わく工	10.12	24,300	25,100
R3	土木一般世話役	3.52	23,000	23,000
R4	特殊作業員	0.99	22,700	22,100
Z		41.36	—	—
Z1	生コンクリート 高炉 24-8-25(20) W/C 55%	29.96	13,400	11,400
Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25	9.85	48,500	55,000
Z3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	1.04	47.2	63.7
Z4	軽油 1.2号 パトロール給油	0.44	89	101
S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	13.12	66,500	57,000

P'(名古屋 H29.4) = 45,617

※機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は仮定の単価とする。

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left(\frac{1.38}{100} \times \frac{51,800}{51,800} + \frac{0.30}{100} \times \frac{861}{747} + \frac{0.24}{100} \times \frac{416}{416} \right) \times \frac{2.49}{1.38 + 0.30 + 0.24} \right. \\
 & + \left(\frac{15.26}{100} \times \frac{18,900}{19,800} + \frac{10.12}{100} \times \frac{25,100}{24,300} + \frac{3.52}{100} \times \frac{23,000}{23,000} + \frac{0.99}{100} \times \frac{22,100}{22,700} \right) \times \frac{43.03}{15.26 + 10.12 + 3.52 + 0.99} \\
 & + \left(\frac{29.96}{100} \times \frac{11,400}{13,400} + \frac{9.85}{100} \times \frac{55,000}{48,500} + \frac{1.04}{100} \times \frac{63.7}{47.2} + \frac{0.44}{100} \times \frac{101}{89} \right) \times \frac{41.36}{29.96 + 9.85 + 1.04 + 0.44} \\
 & + \frac{13.12}{100} \times \frac{57,000}{66,500} \\
 & \left. + \frac{100 - 2.49 - 43.03 - 41.36 - 13.12}{100} \right\} = 43,288.3458412599 \dots \approx 43,290(\text{円}/\text{m}^3)
 \end{aligned}$$

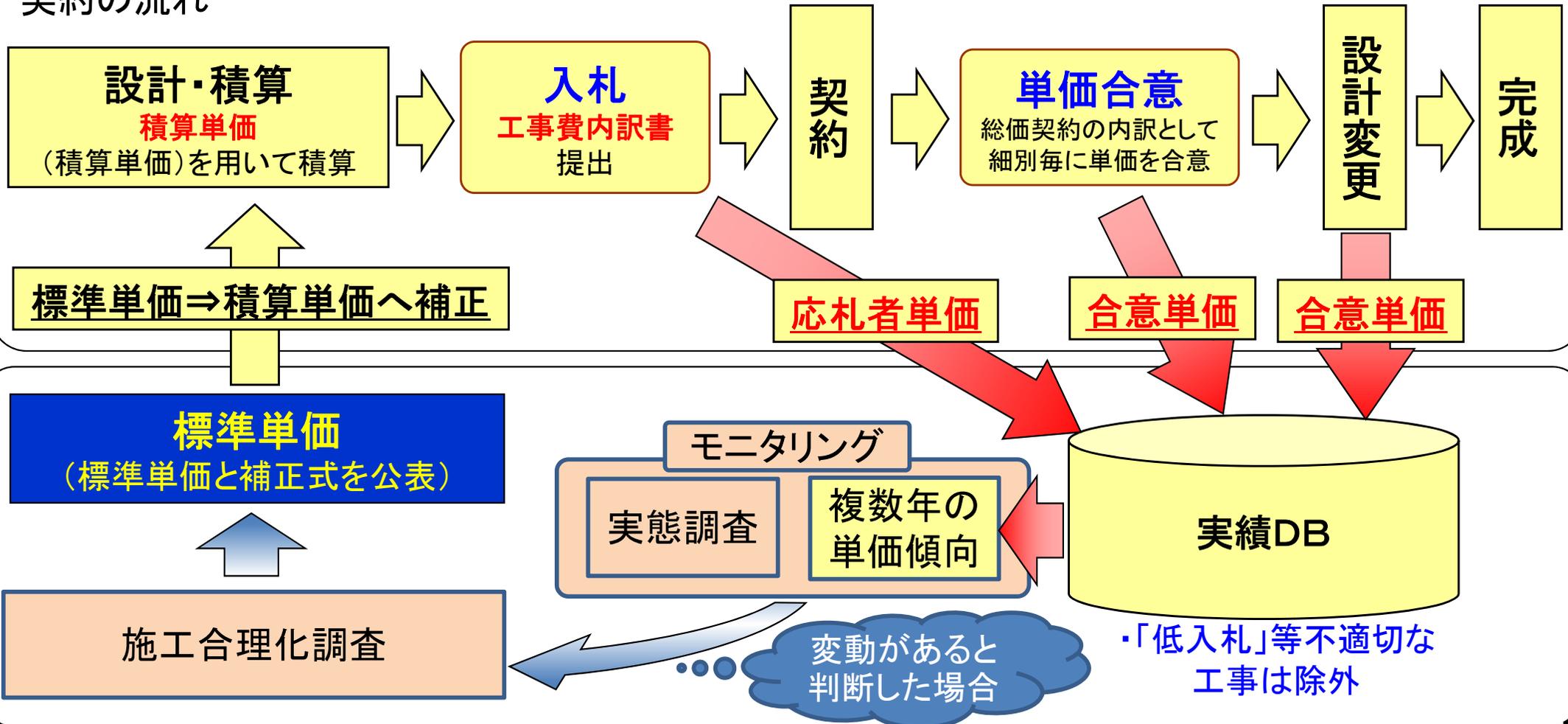
※積算単価は、有効数字4桁、5桁目以降切り上げ。

1. 施工パッケージ型積算方式の概要

(10) 標準単価改定方針

受発注者で合意した単価(合意単価)及び応札者単価の単価変動や、実際の施工状況等の変動(実態調査)をモニタリングする。変動があると判断した場合には、施工合理化調査を行い、新たな「標準単価」に改定。

契約の流れ



1. 施工パッケージ型積算方式の概要

(11) 期待される効果

期待される受発注者への効果

◆元下間の契約の透明性の向上

- 「標準単価」として直接工事費が公表されるとともに、施工パッケージ単位で総価契約単価合意を実施し、合意単価が示されることになるため、元下間の契約の透明性にも効果が見込まれる。

◆価格の透明性の向上

- 標準単価及び積算単価への補正方法を公表することにより、発注者の価格設定が明確化され、受注後の単価協議や設計変更時等における受発注者の協議の円滑化が見込まれる。

◆積算業務等の負担軽減

- 積算作業の簡素化が図られる。

1. 施工パッケージ型積算方式の概要

【参考】 施工パッケージ一覧① (H29年4月適用分)

分類	No	施工パッケージ名称
土工	1	掘削
	2	土砂等運搬
	3	整地
	4	路体(築堤)盛土
	5	路床盛土
	6	押土(ルーズ)
	7	積込(ルーズ)
	8	人力積込
	9	転石破碎
	10	土材料
	11	残土等処分
	12	掘削(ICT)
	13	路体(築堤)盛土(ICT)
	14	路床盛土(ICT)
	15	床掘り
	16	掘削補助機械搬入搬出作業
	17	基面整正
	18	舗装版破碎積込(小規模土工)
	19	埋戻し
	20	タンバ締固め
	21	人肩運搬(積込み～運搬～取卸し)土・石
	22	人肩運搬(積込み～運搬～取卸し)セメント等
	23	人肩運搬(積込み～運搬～取卸し)積ブロック類
	24	人肩運搬(運搬～取卸し)
	25	小車運搬(積込み～運搬～取卸し)土・石
	26	小車運搬(積込み～運搬～取卸し)セメント等
	27	小車運搬(積込み～運搬～取卸し)積ブロック類
	28	小車運搬(運搬～取卸し)
	29	ベルトコンベヤ(ポータブル)併用人力掘削(床掘り)
	30	ベルトコンベヤ(ポータブル)併用人力積込
	31	安定処理
共通工	32	法面整形
	33	法面整形(ICT)
	34	市松芝
	35	吹付法面取壊し

分類	No	施工パッケージ名称
共通工	36	プレキャストコンクリート板
	37	プレキャストコンクリート板(材料費)
	38	ジョイント処理
	39	ジョイント金物(材料費)
	40	人工張芝
	41	基礎碎石
	42	裏込碎石
	43	基礎栗石
	44	裏込栗石
	45	採取小割
	46	コンクリートブロック積
	47	大型ブロック積
	48	間知ブロック張
	49	平ブロック張
	50	連節ブロック張
	51	緑化ブロック積
	52	緑化ブロック(材料費)
	53	天端ブロック(材料費)
	54	胴込・裏込コンクリート
	55	胴込・裏込材(碎石)
	56	遮水シート張
	57	吸出し防止材(全面)設置
	58	植樹
	59	現場打基礎コンクリート
	60	天端コンクリート
	61	プレキャスト基礎ブロック
	62	プレキャスト基礎ブロック(材料費)
	63	石積(練石)(複合)
	64	石張(複合)
	65	石積(張)
	66	石積(張)(材料費)
	67	胴込・裏込コンクリート
	68	裏込材(クラッシュラン)
	69	平石張
	70	平石(材料費)

分類	No	施工パッケージ名称
共通工	71	小型擁壁(A)
	72	小型擁壁(B)
	73	重力式擁壁
	74	もたれ式擁壁
	75	逆T型擁壁
	76	L型擁壁
	77	ペーラインコンクリート(材料費)
	78	コンクリート(場所打擁壁)
	79	プレキャスト擁壁設置
	80	補強土壁壁面材組立・設置
	81	補強土壁壁面材(材料費)
	82	補強材取付
	83	補強材(材料費)
	84	まき出し・敷均し、締固め
	85	ジオテキスタイル壁面材組立・設置
	86	ジオテキスタイル壁面材(材料費)
	87	ジオテキスタイル敷設
	88	まき出し・敷均し、締固め
	89	ジオテキスタイル(材料費)
	90	ヒューム管(B形管)
	91	ボックスカルバート
	92	暗渠排水管
	93	フィルター材
	94	管(函)渠型側溝(製品長 2m/個)
	95	プレキャスト集水樹
96	プレキャスト集水樹(材料費)	
97	鉄筋コンクリート台付管	
98	プレキャストL形側溝(製品長 0.6m/個)	
99	プレキャストマンホール	
100	PC管	
101	コルゲートパイプ	
102	コルゲートフリューム	
103	現場打ち水路(本体)	
104	現場打ち集水樹・街渠樹(本体)	
105	サンドマット	

1. 施工パッケージ型積算方式の概要

【参考】 施工パッケージ一覧② (H29年4月適用分)

分類	No	施工パッケージ名称
共通工	106	安定シート・ネット
	107	粉体噴射攪拌
	108	粉体噴射攪拌(移設)
	109	粉体噴射攪拌(軸間変更)
	110	削孔(アンカー)
	111	アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理(アンカー)
	112	グラウト注入(アンカー)
	113	ボーリングマシン移設(アンカー)
	114	足場(アンカー)
	115	アンカー(材料費)
	116	石積取壊し(人力)
	117	コンクリートはつり
	118	積込(コンクリート殻)
	119	コンクリート削孔(電動ハンマドリル38mm)
	120	コンクリート削孔(さく岩機)
	121	コンクリート削孔(コンクリート穿孔機)
	122	吸出し防止材設置
	123	目地板
	124	止水板
	125	高欄撤去
	126	アスファルト舗装版破碎・積込み
	127	床版1次破碎・撤去
	128	床版1次及び2次破碎・撤去
	129	桁1次切断・撤去
	130	桁1次及び2次切断・撤去
	131	アスファルト塊運搬
	132	床版運搬
	133	じゃかご
	134	ふとんかご
	135	止杭打込
	136	発泡スチロール設置
	137	発泡スチロール(材料費)
	138	緊結金具(材料費)
	139	コンクリート床版
	140	支柱結合アンカー(材料費)

分類	No	施工パッケージ名称	
共通工	141	支柱設置	
	142	支柱(材料費)	
	143	壁面材設置	
	144	壁面材(材料費)	
	145	裏込砕石(軽量盛土)	
	146	現場取卸(鋼桁)	
	147	現場取卸(PC桁)	
	148	現場取卸(鋼管杭)	
	149	函渠	
	150	コンクリート(場所打函渠)	
	151	殻運搬	
	コンクリート工	152	コンクリート
		153	モルタル練
		154	型枠
		155	化粧型枠
		156	化粧型枠(材料費)
		157	撤去しない埋設型枠(材料費)
		158	型枠(鉄筋構造)[省力化構造]
159		消波根固めブロック製作	
河川海岸	160	消波根固めブロック横取り	
	161	消波根固めブロック積込	
	162	消波根固めブロック荷卸	
	163	消波根固めブロック据付	
	164	消波根固めブロック運搬	
	165	根固めブロック撤去	
	166	捨石	
	167	捨石(材料費)	
	168	表面均し	
河川維持	169	除草	
	170	集草	
	171	梱包	
	172	積込・荷卸	
	173	運搬(堤防除草)	
	174	除草, 集草(人力), 梱包, 積込・荷卸(総合)	
	175	除草, 集草(機械), 梱包, 積込・荷卸(総合)	

分類	No	施工パッケージ名称
河川維持	176	不陸整正・締固め
	177	抜根
	178	施肥
	179	伐木・伐竹(伐木除根)
	180	除根(伐木除根)
	181	整地(伐木除根)
	182	集積積込み(機械施工)(伐木除根)
	183	集積(人力施工)(伐木除根)
	184	積込み(人力施工)(伐木除根)
	185	運搬(伐木除根)
	186	伐木・伐竹(複合)
	187	散在塵芥収集
	188	堆積塵芥収集(機械処理)
	189	堆積塵芥収集(人力処理)
	190	削孔
	191	注入
	192	注入設備据付・解体
	193	河床等掘削
	194	軟弱土等運搬
	195	巨石張(練)
	196	巨石張(空)
197	巨石積(練)	
198	巨石採取	
199	巨石(材料費)	
200	木杭打	
201	プレキャスト基礎	
202	プレキャスト基礎(材料費)	
203	中詰コンクリート(材料費)	
204	中詰コンクリート打設	
205	かごマット設置(スロープ型)	
206	野芝種子吹付	
207	被覆シート張	
208	養生(散水養生)	
209	袋詰玉石	
210	笠コンクリートブロック	

1. 施工パッケージ型積算方式の概要

【参考】 施工パッケージ一覧③ (H29年4月適用分)

分類	No	施工パッケージ名称
河川維持	211	笠コンクリートブロック(材料費)
	212	グラウトホール
	213	グラウト管(材料費)
	214	掘削(光ケーブル配管)
	215	埋戻し・締固め
	216	敷砂, 保護砂(材料費)
	217	配管設置(埋設部)
	218	配管設置(露出部)
	219	配管支持金具(材料費)
	220	プルボックス(材料費)
	221	可とう電線管(材料費)
	222	伸縮継手(材料費)
	223	ノーマルバンド(材料費)
	224	多孔保護管(材料費)
	225	ハンドホール
砂防	226	掘削(砂防)
	227	土砂等運搬(砂防)
	228	押土(ルーズ)(砂防)
	229	積込(ルーズ)(砂防)
	230	粒径処理
	231	攪拌混合
	232	混合材料敷均し・締固め
地すべり防止工	233	ボーリング
	234	保孔管
	235	ボーリング仮設機材
	236	足場(地表)
道路舗装	237	不陸整正
	238	下層路盤(車道・路肩部)
	239	下層路盤(歩道部)
	240	上層路盤(車道・路肩部)
	241	上層路盤(歩道部)
	242	不陸整正(ICT)
	243	下層路盤(車道・路肩部)(ICT)
	244	上層路盤(車道・路肩部)(ICT)
	245	基層(車道・路肩部)

分類	No	施工パッケージ名称
道路舗装	246	中間層(車道・路肩部)
	247	表層(車道・路肩部)
	248	基層(歩道部)
	249	中間層(歩道部)
	250	表層(歩道部)
	251	アスカープ
	252	セメントミルク浸透
	253	排水性舗装・表層(車道・路肩部)
	254	フィルター層
	255	透水性アスファルト舗装
	256	踏掛版
	道路付属施設	257
258		金網(フェンス)・支柱(立入防止柵)
259		支柱
260		支柱(材料費)
261		車止めポスト
262		防雪柵
263		防雪柵(材料費)
264		防雪柵現地張出し・収納
265		雪崩予防柵
266		雪崩予防柵(材料費)
267		吊柵アンカー
268		パイプアンカー(材料費)
269		樹脂アンカー(材料費)
270		簡易ケーブルクレーン(1t吊)設置・撤去
271		ボックスビーム
272		落下物等防止柵
273		落下物等防止柵(材料費)
274		支柱アンカー
275	支柱アンカー(材料費)	
276	支柱建込	
277	支柱(材料費)	
278	土留板取付	
279	土留板(材料費)	
280	しゃ音板・透光板取付	

分類	No	施工パッケージ名称
道路付属施設	281	しゃ音板・透光板(材料費)
	282	落下防止索(材料費)
	283	下段パネル(材料費)
	284	笠木取付
	285	笠木(材料費)
	286	外装板取付
	287	外装板(材料費)
	288	水切板取付
	289	水切板(材料費)
	290	歩車道境界ブロック
	291	地先境界ブロック
	292	歩車道境界ブロック撤去
	293	地先境界ブロック撤去
	294	特殊ブロック舗装
	295	組立歩道組立据付
	296	組立歩道(材料費)
	297	排水柵
	298	橋名板取付
	299	橋梁用高欄
	300	橋梁用高欄一体式(材料費)
	301	飾り高欄
	302	飾り高欄(材料費)
	303	トンネル内装板設置
	304	トンネル内装板(材料費)
	305	距離標
	306	スノーポール設置・撤去
	307	スノーポール(材料費)
道路維持修繕	308	路面切削
	309	殻運搬(路面切削)
	310	舗装版破碎
	311	舗装版切断
	312	クラック補修
	313	注入材(材料費)
	314	クラック防止シート張
	315	クラック防止シート(材料費)

1. 施工パッケージ型積算方式の概要

【参考】 施工パッケージ一覧④ (H29年4月適用分)

分類	No	施工パッケージ名称
道路維持修繕	316	素地調整
	317	付属構造物塗替
	318	張紙防止塗装
	319	張紙防止塗装(材料費)
	320	鋼板(材料費)
	321	スタッドジベル(材料費)
	322	鋼板巻立て
	323	シール材(材料費)
	324	注入材(材料費)
	325	現場溶接
	326	フーチングアンカー削孔・定着
	327	アンカー材(材料費)
	328	アンカー注入材(材料費)
	329	鋼板取付
	330	シール材(材料費)
	331	注入材(材料費)
	332	コンクリート削孔
	333	コンクリート巻立て
	334	足場(適用範囲外コンクリート巻立て工)
	335	下地処理(適用範囲外コンクリート巻立て工)
	336	型枠(適用範囲外コンクリート巻立て工)
	337	コンクリート(適用範囲外コンクリート巻立て工)
	338	とりこわし
	339	鉄筋
	340	コンクリート
	341	足場・防護
	342	支承取替(鋼橋)
	343	支承取替(PC橋)
	344	支承(材料費)
	345	足場
	346	現場溶接鋼桁補強
	347	コンクリート削孔(コアボーリングマシン)
	348	コンクリート削孔(ハンマドリル)
	349	コンクリート削孔(さく岩機[ハンドドリル])
	350	アンカー

分類	No	施工パッケージ名称
道路維持修繕	351	アンカー材(材料費)
	352	注入材(材料費)
	353	充填補修
	354	補修材(材料費)
	355	除草
	356	集草
	357	積込運搬
	358	機械除草(肩掛式)・集草・積込運搬
	359	機械除草(肩掛式)・集草
	360	機械除草(ハンドガイド式)・集草・積込運搬
	361	機械除草(ハンドガイド式)・集草
	362	路面清掃(路肩部・人力)
	363	路面清掃(歩道等・人力)
	364	視線誘導標清掃
	365	側溝清掃(人力清掃工)
	366	樹清掃(人力清掃工)
	367	面導水
	368	面導水(材料費)
	369	線導水
	370	線導水(材料費)
	371	チップング(厚1~2cm)
	372	アンカーボルト挿入
	373	アンカーボルト(材料費)
	374	注入材(材料費)
	375	桁連結装置(材料費)
	376	芯出し素地調整
	377	現場孔明
	378	連結板取付
	379	現場溶接
	380	ボルト締め
	381	路肩整正(人力による土はね)
	382	ガードレール復旧
	383	ガードパイプ復旧
共同溝工	384	舗装版破砕積込
	385	床掘り

分類	No	施工パッケージ名称
共同溝工	386	埋戻し・締固め
	387	運搬(電線共同溝)
	388	軽量鋼矢板設置・撤去
	389	覆工板設置・撤去
	390	管路材設置
	391	受金具(材料費)
	392	支持金具(材料費)
	393	管路受台(スペーサ)(材料費)
	394	プレキャストボックスブロック設置
	395	蓋設置
	396	蓋(材料費)
	397	舗装版破砕
	398	床掘り
	399	埋戻し
	400	中埋材(材料費)
	401	埋設表示シート(材料費)
	402	基礎材
	403	埋設部管路材設置
	404	露出部管路材設置
	405	スリーブ(材料費)
406	伸縮継手(材料費)	
407	ハンドホール	
408	ハンドホール蓋(材料費)	
409	ハンドホール固定板(材料費)	
410	支持金具(材料費)	
橋梁工	411	型枠(鋼橋床版)
	412	養生(鋼橋床版)
	413	コンクリートアンカーボルト設置
	414	排水管設置
	415	排水管(材料費)
その他	416	現場発生品・支給品運搬

2. 土木工事標準積算基準書について

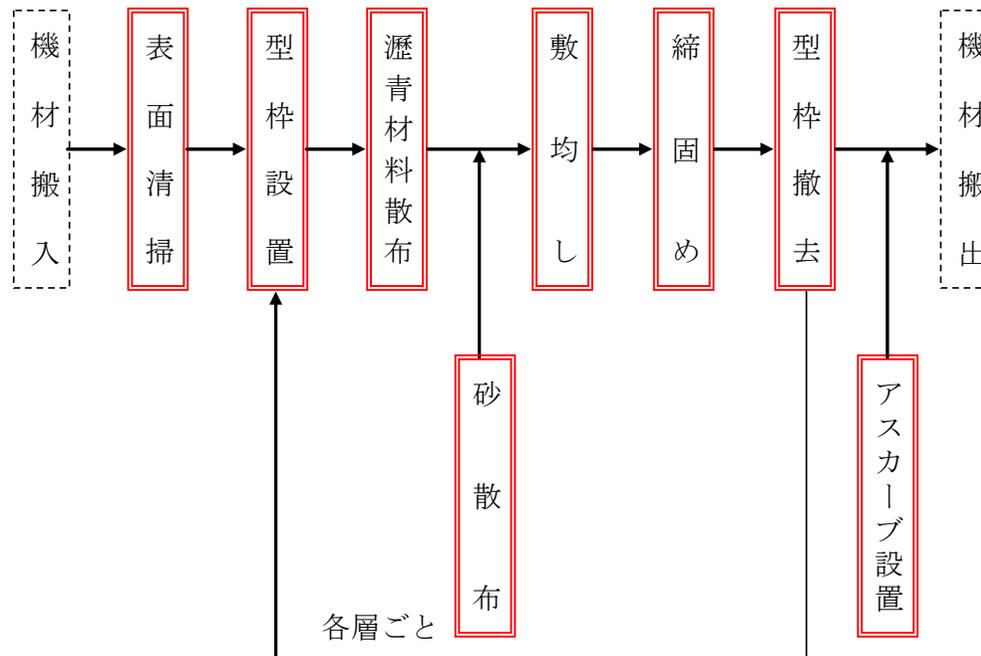
(1) 施工パッケージの表記(施工概要)

- ◆ 施工フローで、施工パッケージが該当する箇所は「**二重実線**」で表記。
※ 歩掛で対応する箇所は、「**一重実線**」で表記。

【記載例：アスファルト舗装工】

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



施工概要にある施工フローで、
**施工パッケージが該当する箇所は、
「二重実線」で表記。**
※ 歩掛で対応する箇所は、「**一重実線**」
で表記。

- (注)
1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 砂散布の有無にかかわらず本施工パッケージを適用出来る。

2. 土木工事標準積算基準書について

(2) 施工パッケージの表記(積算条件区分、費用内訳)

- ◆ 施工パッケージは、条件区分に**積算条件区分一覧**と**費用内訳**を記載。
- ◆ 費用内訳には、積算条件区分に含まれる内容を記載。

【記載例：路盤工】

3-2 下層路盤(車道・路肩部)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.5 下層路盤(車道・路肩部) 積算条件区分一覧

(積算単位：m2)

平均厚さ	材料
(表 3.6)	クラッシュラン C-20
	クラッシュラン C-30
	クラッシュラン C-40
	再生クラッシュラン RC-20
	再生クラッシュラン RC-30
	再生クラッシュラン RC-40
	路盤材 (各種)

(注) 1. 上表は、車道部及び路肩部の下層路盤(凍上抑制層がある場合も含む)の路盤材敷均し・締固めの他、散水等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 路盤材の材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.27)

表3.6 平均厚さ

積算条件	区分
平均厚さ	75mm 以上 125mm 以下
	125mm を超え 175mm 以下
	175mm を超え 200mm 以下
	200mm を超え 225mm 以下
	225mm を超え 275mm 以下
	275mm を超え 325mm 以下
	325mm を超え 375mm 以下
	375mm を超え 400mm 以下
	400mm を超え 425mm 以下
	425mm を超え 475mm 以下
	475mm を超え 525mm 以下
	525mm を超え 575mm 以下
575mm を超え 600mm 以下	
600mm を超え 625mm 以下	

- 積算条件区分一覧を記載
(積算条件区分ごとの標準単価は標準単価表(国総研HP)に掲載)。
- 注釈には、積算条件区分に含まれる**費用内訳(赤線部)**や、特筆すべき内容を記載。

下
以下
以下
以下

2. 土木工事標準積算基準書について

(3) 施工パッケージの表記(代表機労材規格一覧)

◆標準単価を設定した代表的な機械・労務・材料規格を表示。
 最大で機械:3種類、労務:4種類、材料:4種類、市場単価:1種類。

【1つのパッケージに1つの代表機労材規格のもの】

【土砂等運搬】

土砂等発生現場	項目	代表機労材規格	備考	
標準	機械	K 1 ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t 積級	タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む	
		K 2 -		
		K 3 -		
	労務	R 1 運転手(一般)		
		R 2 -		
		R 3 -		
		R 4 -		
	材料	Z 1 軽油 1.2号 バトロール給油		
		Z 2 -		
		Z 3 -		
		Z 4 -		
	市場単価	S	-	

【1つのパッケージに複数の代表機労材規格があるのもの】

【基層(歩道部)・中間層(歩道部) 平均幅員1.4m以上の場合】

平均幅員	項目	代表機労材規格	備考	
1.4m以上	機械	K 1 アスファルトフィニッシャ [クローラ型] 舗装幅 1.4~3.0m		
		K 2 振動ローラ(舗装用) [搭乗・コンバインド式・排出ガス対策型(第1次基準値)] 運転質量 3~4t	賃料	
		K 3 -		
	労務	R 1 普通作業員		
		R 2 特殊作業員		
		R 3 運転手(特殊)		
		R 4 土木一般世話役		
	材料	Z 1	再生アスファルト混合物 再生粗粒度 AS 混合物(20)	標準締固め後密度 2.20t/m ³
			アスファルト混合物 細粒度 AS 混合物(13)	標準締固め後密度 2.15t/m ³
			再生アスファルト混合物 再生粗粒度 AS 混合物(20)	標準締固め後密度 各種(1.90以上 2.40t/m ³ 未満)
		Z 2	アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	プライムコートの場合
			アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	タックコートの場合
		Z 3 軽油 1.2号 バトロール給油		
Z 4 -				
市場単価	S	-		

代表機労材は、標準単価に含まれる主なものの規格を表示。

代表機労材規格には示していなくても、標準単価には施工に必要な全ての費用を含んでいる。

2. 土木工事標準積算基準書について

(4) 施工パッケージの表記(歩掛条件を括った場合の記載)

◆ 施工パッケージにおいて単価差が小さい歩掛の条件区分は、積算の簡素化を目的にその条件区分を括り、積算条件から削除。積算基準書には「〇〇の有無にかかわらず適用出来る」ことを施工概要に記載。

【記載例: アスファルト舗装工】

《積上積算(歩掛時)》

②-1 アスファルト舗装工

1. 適用範囲
本資料は、アスファルト舗装工に適用する。なお、アスファルト混合物の積算は、購入方式を標準とし、プラント方式の場合は別途考慮する。

2. 施工概要
施工フローは、下記を標準とする。

(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

砂散布費
瀝青材料を散布後やむを得ず交通を解放する場合等、砂の散布が必要な場合は、砂散布の費用として、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

砂散布费率 (%)	
タックコート	9
プライムコート	10

《施工パッケージ》

②-1 アスファルト舗装工

1. 適用範囲
本資料は、舗装工における基層・中間層・表層及び縁石工におけるアスカープに適用する。

1-1 適用出来る範囲
(1) アスファルト混合物が購入方式の場合
(2) 施工箇所が車道・路肩部で1層当り平均仕上り厚が70mm以下の場合
(3) 施工箇所が歩道部で1層当り平均仕上り厚が70mm以下の場合
(4) 断面積が125cm²以上、300cm²未満のアスカープの場合

1-2 適用出来ない範囲
(1) アスファルト混合物が現地プラント方式の場合
(2) アスファルト混合物の締め後密度が1.90t/m³未満、2.50t/m³以上の場合

2. 施工概要
施工フローは、下記を標準とする。

(注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2. 砂散布の有無にかかわらず本施工パッケージを適用出来る。

条件区分を括った場合は、「〇〇の有無にかかわらず適用出来る」と記載

2. 土木工事標準積算基準書について

(5) 施工パッケージの表記(「実数入力」の『条件区分化』)

◆施工パッケージでは、積算の簡素化から、積上積算方式における「実数入力」を極力『条件区分化』している。

【記載例：路盤工】

3-2 下層路盤(車道・路肩部)
 (1) 条件区分
 条件区分は、次表を標準とする。

表3.5 下層路盤(車道・路肩部) 積算条件区分一覧

(積算単位：m2)

平均厚さ	材料
(表 3.6)	クラッシュラン C-20
	クラッシュラン C-30
	クラッシュラン C-40
	再生クラッシュラン RC-20
	再生クラッシュラン RC-30
	再生クラッシュラン RC-40
	路盤材 (各種)

(注) 1. 上表は、車道部及び路肩部の下層路盤(凍上抑制層がある場合も含む)の路盤材敷均し・締固めの他、散水等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
 2. 路盤材の材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.27)

表3.6 平均厚さ

積算条件	区分
平均厚さ	75mm 以上 125mm 以下
	125mm を超え 175mm 以下
	175mm を超え 200mm 以下
	200mm を超え 225mm 以下
	225mm を超え 275mm 以下
	275mm を超え 325mm 以下
	325mm を超え 375mm 以下
	375mm を超え 400mm 以下
	400mm を超え 425mm 以下
	425mm を超え 475mm 以下
	475mm を超え 525mm 以下
	525mm を超え 575mm 以下
	575mm を超え 600mm 以下
	600mm を超え 625mm 以下
	625mm を超え 675mm 以下
	675mm を超え 725mm 以下
	725mm を超え 775mm 以下
	775mm を超え 800mm 以下
	800mm を超え 825mm 以下
	825mm を超え 875mm 以下
875mm を超え 925mm 以下	
925mm を超え 975mm 以下	
	1, 025mm を超え 1, 075mm 以下
	1, 075mm を超え 1, 125mm 以下

積上積算方式での「実数入力」条件を「条件区分化」

過去の実績がある範囲で設定。

3. 入札・契約図書類における留意事項

(1) 変更のあるもの、ないもの

(1) 入札公告・説明書等

(2) 工事特記仕様書、図面

(3) 総価契約単価合意方式
(単価協議等)

(4) 設計内訳書(工事工種体系)

(5) 数量算出要領

積上積算方式と変更なし

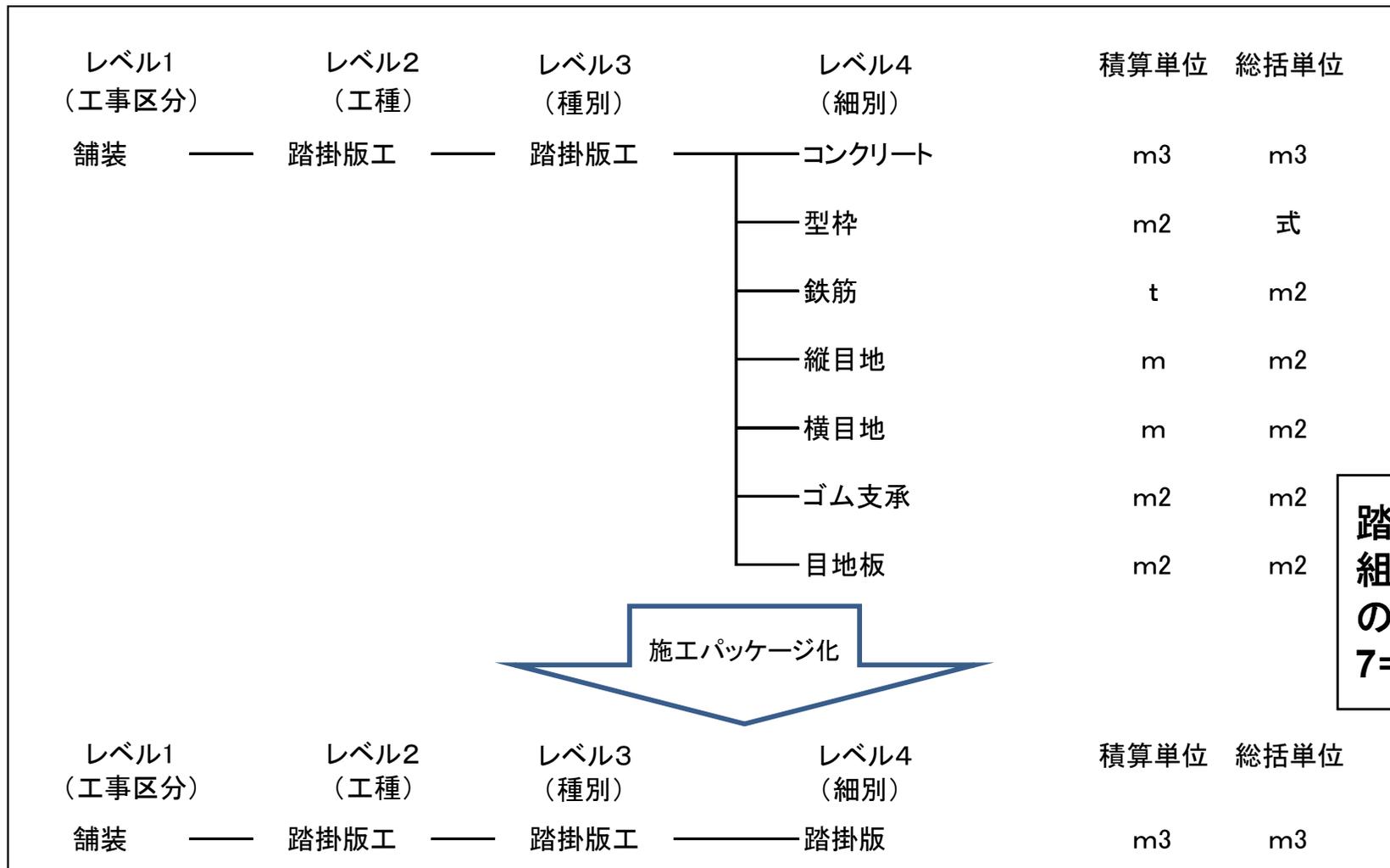
積上積算方式と
変更あり

3. 入札・契約図書類における留意事項

(2) 工事工種体系ツリーの変更

施工パッケージ化に伴い工事工種体系ツリーを一部変更している。

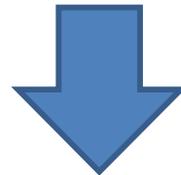
【踏掛版の例】



踏掛版は、複数工種を
組合せた施工パッケージ
のため、細別数が
7⇒1に減少

3. 入札・契約図書類における留意事項 (3) 数量算出要領修正の方針

- ✓ 数量算出の基本的な考えは従来の積上と同じ
- ✓ 施工パッケージ化に伴う積算基準改定と整合を図る



「数量算出要領の変更点」

≡ 「積算基準の変更点」

3. 入札・契約図書類における留意事項

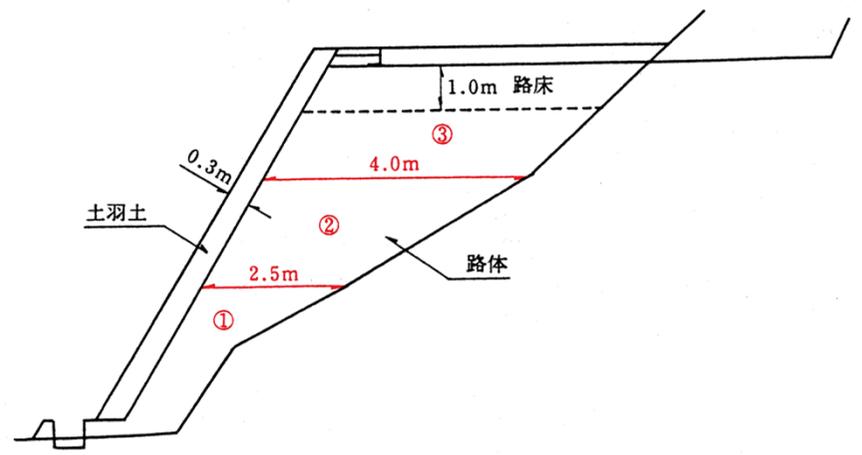
(4) 数量算出要領 積算基準改定に伴う修正事例 (1/2)

✓ 区分の見直しに伴う修正

例:「盛土」の施工幅区分

また、~~盛土施工幅路体~~ (築堤) 盛土は施工幅員、路床盛土は平均幅員により下記のとおり区分して算出する。

- ① ~~1.0m未満~~
- ② ~~1.0m以上~~ ① 2.5m未満
- ③ ② 2.5m以上4.0m未満
- ④ ③ 4.0m以上



【積上】	【施工パッケージ】
① 1.0m未満…100m ³	⇒ ① 2.5m未満 …300m ³
② 1.0m以上2.5m ³ 未満…200m ³	② 2.5m以上4.0m未満
③ 2.5m以上4.0m未満	③ 4.0m以上
④ 4.0m以上	積上の①②区分を集約

区分の集約化

✓ 実数入力 of 区分化に伴う修正

例:「路盤工」の路盤厚

(3) 路盤厚区分及び規格区分
路盤の厚さ及び材料の規格 (粒調碎石 40~0、クラッシュラン 40~0等) ごとに区分して算出する。



(3-2) 平均路盤厚さ区分及び規格区分
路盤の平均厚さ及び材料の規格 (粒調碎石 40~0、クラッシュラン 40~0等) ごとに区分して算出する。

項目	材料	平均厚さ区分
下層路盤 (車道・路肩部)	-	75mm 以上 125mm 以下
		125mm 超 175mm 以下
		175mm 超 200mm 以下
		⋮
		1075mm 超 1125mm 以下

【積上】	【施工パッケージ】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 75mm…500m² ・ 90mm…500m² ・ 100mm…1000m² 	⇒ 75mm以上125mm以上 …2000m ²
路盤厚毎に面積を算出	区分化した厚さ毎に算出

実数入力を区分化

3. 入札・契約図書類における留意事項

(5) 数量算出要領 積算基準改定に伴う修正事例 (2/2)

✓ 数量算出項目・区分の削除に伴う修正

例:「現場打擁壁」の目地材、水抜きパイプ、吸出防止材【積上】

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	擁壁種類	擁壁平均高さ	規格	必要の有無	単位	数量	備考
擁壁本体	コンクリート	○	○	○	—	m3	○	
基礎	砕石	20cm超え	×	×	○	m2	○	
		20cm以下	×	×	○	—	×	
均し	コンクリート	×	×	×	○	—	×	
目地材		×	×	×	○	—	×	
水抜きパイプ		×	×	×	○	—	×	
吸出し防止材	点	×	×	×	○	—	×	
	帯状・全面	×	×	×	—	m2	○	
鉄筋		×	×	○	—	t	○	

【施工パッケージ】 ↓ 項目・区分から削除

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	擁壁平均高さ	コンクリート規格	施工条件	鉄筋量	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分	単位	数量	備考
小型擁壁 (A)		○	○	×	×	○	○	○	×	m3		
小型擁壁 (B)		○	○	○	×	○	○	○	×	m3		
重力式擁壁		○	○	×	×	○	○	○	○	m3		
もたれ式擁壁		×	○	×	×	○	○	○	○	m3		
逆T型擁壁		×	○	×	○	○	○	○	○	m3		
L型擁壁		×	○	×	○	○	○	○	○	m3		

施工パッケージでは、場所打擁壁の目地材、水抜きパイプ、吸出し防止材は使用の有無にかかわらず同じ単価で積算する(積算基準書に記載)。

積算条件を大括り化し、項目・区分を削除

✓ 数量算出項目・区分の追加に伴う修正

例:「函渠」の養生工の種類【積上】

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格	断面	必要性の有無	単位	数量	備考
函渠本体	コンクリート	○	○	—	m ³	○	
基礎	砕石	敷均し厚20cm以下	×	×	○	—	×
		敷均し厚20cm超え	○	×	—	m ²	○
均し	コンクリート	×	×	○	—	×	

【施工パッケージ】 ↓

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	規格	断面内空寸法	必要性の有無	養生工の種類	単位	数量	備考
函渠本体	コンクリート	○	○	—	○	m ³	○	
基礎	砕石	敷均し厚20cm以下	×	×	×	—	×	
		敷均し厚20cm超え	○	×	—	m ²	○	
均し	コンクリート	×	×	○	×	—	×	

従来は発注段階で検討するものとして区分化されていなかったものを追加。

項目・区分の追加

4. 設計変更について

施工パッケージ型積算方式の変更対応方法

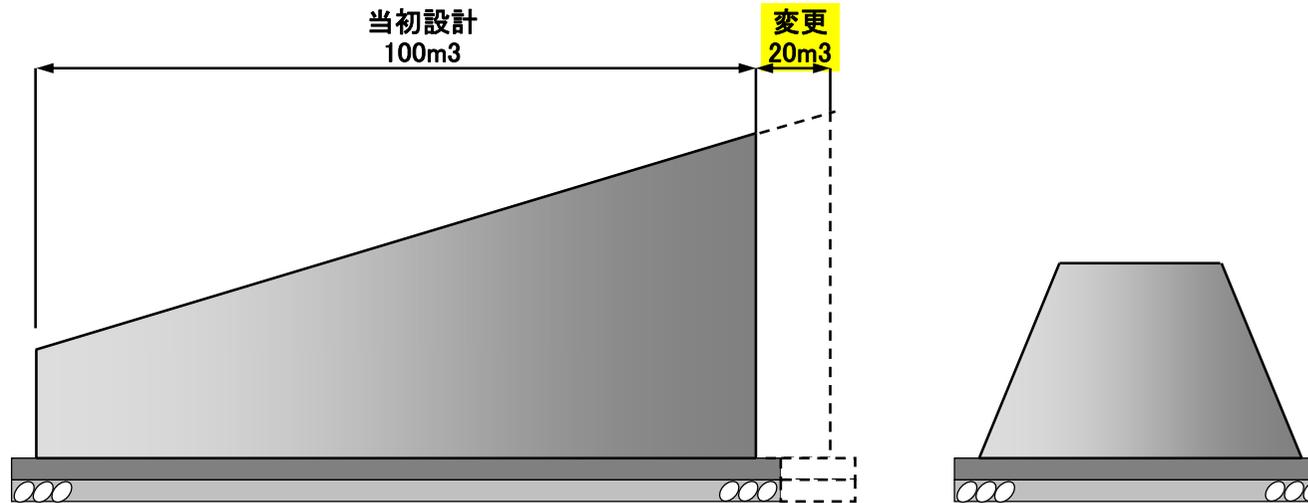
◆変更対象となる・ならない、変更積算における基本的な考え方は積上積算と同じ。

変更要素	変更内容	変更対応方法	備考
施工数量の変更	Co打設量、土量、舗装面積など	積算単価 × 変更施工量で対応	【解説】 具体例－1参照
使用材料の変更	Co規格(呼び強度、セメント種類)、 舗装材料など	積算条件区分の変更で対応	【解説】 具体例－2参照
条件区分の変更	舗装厚、運搬距離、土質、 昼夜間など	適用範囲及び積算条件区分の範囲に、 含まれる場合 ⇒ 変更なし 含まれない場合 ⇒ 積算条件区分の変更で対応	【解説】 具体例－3参照
施工機械の変更	代表機労材規格と違う施工機械を 使用する場合など	現場条件が適用範囲から外れていた場合 ⇒ 見積対応 (例; 高所作業車の適応高さ外) 積算条件に施工機種が無い場合 ⇒ 変更なし	【解説】 具体例－4参照

4. 設計変更について

(1) 施工数量の変更(打設量、掘削量など)

【事例1】現場条件などにより小型擁壁の設置延長が増加した場合は、**積算単価×変更施工量**で対応する。

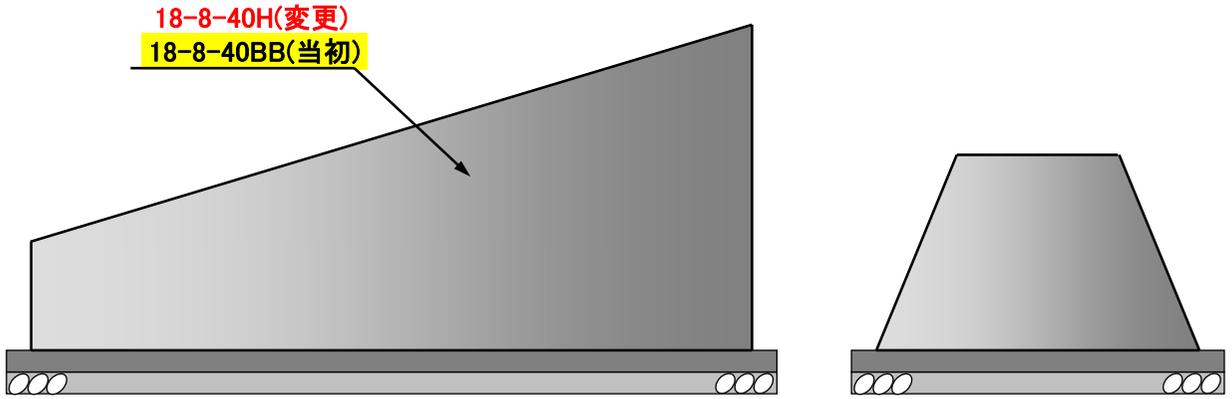


工事数量総括表						
(当初)						
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
道路改良		式	1	1		
擁壁工		式	1	1		
場所打擁壁工 (構造物単位)		式	1	1		
小型擁壁	コンクリート規格:18-8-40BB	m³	100	120		

4. 設計変更について

(2) 使用材料の変更(数量が同じで規格のみ変更)

【事例2】関係機関との協議により施工工程が厳しくなり、工期短縮を図るため小型擁壁のコンクリート規格に早強の使用を指示した場合は、新単価による再合意を行う。その際、新単価の算出は**標準単価の材料規格を補正して算出する**。



工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量増減	摘要
道路改良		式	1	1		
擁壁工		式	1	1		
場所打擁壁工 (構造物単位)		式	1	1		
小型擁壁	コンクリート規格: 18-8-40BB	m3	100	0	←	当初
小型擁壁	コンクリート規格: 18-8-40H	m3	0	100	←	変更

4. 設計変更について

(3) 幅のある条件区分の変更(砕石の厚さなど)

【事例3】図面が変更になり、当初の積算条件区分外になった場合は、**条件区分の変更**で対応。但し、積算条件区分に含まれる範囲は変更しない。

【記載例:基礎砕石】

3. 施工パッケージ

3-1 基礎砕石

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 基礎砕石 積算条件区分一覧

(積算単位: m²)

砕石の厚さ	砕石の種類
7.5cm 以下	
7.5cm を超え 12.5cm 以下	
12.5cm を超え 17.5cm 以下	
17.5cm を超え 20.0cm 以下	
20.0cm を超え 22.5cm 以下	
22.5cm を超え 27.5cm 以下	
27.5cm を超え 30.0cm 以下	

【ケース1】
厚さ: 18.0cm (当初) → 20.5cm (変更)
⇒ 条件区分を変更する
条件区分: 17.5cm を超え 20.0cm 以下 (当初)
→ 20.0cm を超え 22.5cm 以下 (変更)

【ケース2】
厚さ: 18.0cm (当初) → 19.0cm (変更)
⇒ 条件区分は変更しない。

他に、“運搬距離変更”、“土質変更”、“昼夜間変更”等も条件区分の変更で対応する。

4. 設計変更について

(4) 施工機種の変更

【事例4】自主施工を原則とするため、基準書記載の適用範囲（施工高さ、深さなど）及び積算条件区分に含まれる範囲は、変更しない。

【積算】

施工土量: 80,000m³
 積算単価: 「土量50,000m³以上」で算出

積込(ルーズ) 積算条件区分一覧

(積算単位:m³)

土質	作業内容
土砂	土量50,000m ³ 未満 ←
	土量50,000m ³ 以上 ←
	平均施工幅1m以上2m未満

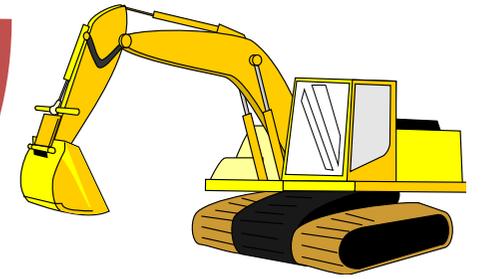
《施工パッケージで想定している機械》

- バックホウ 0.8m³
- バックホウ 1.4m³

※基準書の代表機労材規格一覧に表示。

【現場】

現場で使用した機械
 バックホウ0.8m³



現場で0.8m³のバックホウを使用したからといって、積算条件を「土量50,000m³未満」に変更しない。

5. その他

国総研HP公表内容（平成 29年5月現在）

- ◆**施工パッケージ型積算方式について(説明資料)**
- ◆**施工パッケージ型積算方式標準単価表**
- ◆**東日本大震災の被災地で適用する施工パッケージ型積算方式標準単価表**
- ◆**熊本地震の被災地(熊本県)で適用する施工パッケージ型積算方式標準単価**
- ◆**代表材料規格の基準単価作成方法について(代表機労材規格一覧)**
- ◆**施工パッケージ型積算方式Q&A**
- ◆**土木工事数量算出要領(案)**
- ◆**工事工種体系ツリー**

【国総研HP掲載場所】

[国総研トップページ](#) > [各研究分野のページ](#) > [社会資本マネジメント研究センター](#) > [社会資本システム研究室](#) > [研究テーマ・技術情報](#)